

## 上位関連計画の概要

### 上位計画

---

#### ① 添田町第6次総合計画

添田町第6次総合計画は、本町における最上位計画です。あらゆる計画の基本となるもので、行財政運営の総合的な指針となる計画として、策定されています。

「みんなでまちづくり」を合言葉に、10年後に目指すまちの姿として「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」を目指します。

具体的な施策としては、①「【定住・愛着】住みたい・住み続けたいまち」として、定住対策や空き家の活用、美しい景観づくりや公園・緑地の維持管理、町有財産や歴史文化財等の利活用など、②「【稼ぐ・関係人口】人が集まり賑わうまち」として、農林業や観光、商工業の振興を挙げています。

#### ② 添田町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

まち・ひと・しごと創生法に基づき、添田町第6次総合計画の実行計画部分のうち、少子化と人口減少を克服し、持続可能な地域社会を構築するための施策を抜粋し、取りまとめたものです。

総合戦略は、①添田町への新しい「ひと」の流れをつくる、②添田町への新しい「しごと」の流れをつくる、③結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる、の4つを柱（基本目標）として定めています。

#### ③ 都市計画区域マスタープラン筑豊広域都市計画区域

本都市計画マスタープランは、「福岡県都市計画基本方針」に即し、広域的な視点から圏域の都市計画の基本的な方針を策定したものです。添田町の一部は筑豊広域都市計画区域に含まれており、この区域の都市づくりの目標は「県土の中央部に位置する優位性を生かした新産業の展開と流域文化圏の形成をめざす筑豊都市圏」です。

景観に関する都市計画の決定の方針として、「直方平野上流部を中心とした自然地形、遠賀川・彦山川等の河川、山林などの多様な自然景観に加え、歴史的建造物や土木遺産等の人工的な景観要素を有し、日本三大修験山である英彦山やそれを取り巻く歴史的風致、筑豊炭田関連施設をはじめとした、歴史的・文化的景観も豊富。こうした本圏域らしさを醸成している良好な自然景観や調和のとれた良好な街並み景観及び歴史・文化的な景観の保全・育成を図る。」と定められています。本都市計画マスタープランをとおして、①「景観法」や条例に基づく良好な景観形成、②県・市町村の協働による景観計画の策定の2点を推進していくことが挙げられています。

## 関連計画

### ④ 添田町歴史的文化遺産活用まちづくり基本構想

添田町が有する様々な歴史的文化遺産を群として相互に活用し、まちの活性化に繋げることを目的としています。「添田町第5次総合計画後期基本計画」における「豊かな自然と歴史のこころがつくる活力のあるまち」を実現する基本構想です。

歴史まちづくりの目標を『**霊峰「英彦山」の下で育まれた歴史文化の保存活用を通じ、人々の交流と添田町へのシビックプライドを醸成**』と定め、歴史まちづくり方針として歴史的文化遺産の保存・活用の方針を定めています。

### ⑤ 添田町歴史的風致維持向上計画

「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）」に基づき、脈々と受け継がれてきた大切な歴史的風致を今後も継承することを目的とした「添田町歴史文化遺産活用まちづくり基本構想」の実現化を図るための計画です。本計画の推進により、地域の特性や魅力を有効かつ適正に活用し、更なる魅力の発見による振興を図り、町民相互の交流や来訪者をもてなす観光等により地域の活性化が推進され、町民の町に対する愛着が育まれることが期待されています。

添田町の維持向上すべき歴史的風致として①英彦山神宮にまつわる歴史的風致、②添田本町地区と神幸祭にみる歴史的風致、③英彦山水系流域と伝統芸能にみる歴史的風致、④彦山踊りにみる歴史的風致、⑤英彦山詣でと英彦山権現講にみる歴史的風致、⑥高住神社にまつわる歴史的風致を挙げ、歴史的風致維持向上に関する方針として、**人々の活動の継承や歴史的建造物の保存・活用、歴史的建造物を取り巻く環境の保全、歴史的風致の認識を高めるための取り組み**を定めています。

### ⑥ 添田町観光戦略

添田町まち・ひと・しごと創生総合戦略では「英彦山を核とした観光振興」を掲げ、添田町への交流人口増加を目指しています。観光関係者だけでなく、6次産業事業者などを巻き込んだ**多彩な関係者との合意形成のうえ、地域が一体**となり、目標を共有した観光地域づくりを図るため、添田町観光の核となる組織としてDMO そえだ（仮称）を設立し、行政をはじめ町民や各種団体、事業者、外部人材などが一体となった稼げる観光地を目指すために策定されました。平成29年に国の史跡指定を受けた英彦山を中心に歴史的文化遺産を活かしたまちづくりを推進することで注目が集まることが期待されています。

添田町の目指すべき姿を「**歴史も食も自然も探訪、添田町**」とし、観光戦略の方向性としては、30～50代のファミリー層をターゲットにした戦略を推進しています。

## ⑦ 国指定史跡英彦山整備基本計画

「国指定史跡英彦山保存活用計画」に基づき、史跡英彦山を国民共有の歴史文化資産として適切に保存し、後世へと確実に継承するとともに、歴史文化遺産として史跡英彦山を活用したまちづくりを推進するために策定されています。

基本理念を「英彦山の信仰を支えた空間と賑わいを回復し、周辺地域の象徴としての英彦山の再興を図り継承する」と定め、①保存整備「遺構を適正に保存しつつ、来訪者が快適に体験できるよう整備を行う」、②活用整備「来訪者や地域住民へ史跡の価値をわかりやすく伝え、見学や体験するうえでの安全を確保する」、③周辺地域や関連機関との連携の3つを基本方針としています。

全体整備計画としては、整備拠点と動線について次のように設定しています。

- ①歴史・文化の拠点 [山頂聖域／修行窟／英彦山神宮／座主院跡／門前坊舎]  
→史跡英彦山の価値を構成する主要な要素を含む拠点。史跡の保存修理と活用を行う。
- ②活用の拠点 [花駅（旧英彦山小学校）／英彦山町／英彦山修験道館／銅鳥居周辺駐車場]  
→史跡を公開活用するための拠点。来訪者が快適に過ごし、また史跡の歴史文化や価値を理解するための施設や機能の整備を行う。
- ③主動線 [参道（境内と門前領域）／登拝道（山中行場）]  
→英彦山修験道の独自性のある空間構造を体験できる動線。参道や参拝道に係る修景、整備を行う。
- ④目的別動線 [参道から座主院に至る動線／英彦山神宮から修行窟に至る動線]  
→主動線から離れた地点の歴史・文化の拠点へと繋ぐ動線。座主院跡と修行窟を積極的に公開活用していくために必要となる足場や誘導サインの整備を行う。

## ⑧ 添田町森林整備計画

森林面積は 11,037ha で、町の総面積の 83%を占めており、そのうち人工林率は 82.3%と県平均を大きく上回っています。地籍調査の未完地区が全域に存在し境界の確認が不足しており、また過疎化・高齢化が進み林業の担い手不足が著しくなっています。

森林整備の基本的な考え方としては、森林の有する水源涵養や山地災害防止等の的確な森林の更新の他、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、生物多様性などの多面的機能が発揮できるよう、適正な森林整備を推進することとしています。特に「文化機能森林」としての保全については、史跡・名勝の所存する森林やこれらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林は、潤いある自然景観や歴史的風致を構成するという観点から、**美的景観の維持・形成に配慮した森林整備と風致のための保安林の指定や適切な管理**を推進することで文化機能の維持増進を図るよう定めています。